

30 西太平洋地域における義肢の研究動向

研究所 福祉機器開発部 石渡 利奈 相川 孝訓 井上 剛伸

【はじめに】本研究では、当センターが WHO 指定研究協力センターとして取り組んでいる 4 つの活動のひとつ「リハビリテーションシステムに関する知識を高める」ことを目的として、西太平洋地域における義肢の研究動向の文献調査を行い、国または地域別に研究内容を整理したマップを作成した。

【方法】データベース「PubMed」にて、検索条件（期間：1984～2013 年、アブストラクトまたはタイトルに Mesh 用語（PubMed 独自のシソーラス用語）の“artificial limbs（義肢）”の言葉が含まれており、かつ全フィールドに、西太平洋地域の国または地域名（WHO によって定義される 37 か国・地域）のいずれか一か国が含まれている）を設定し、該当する文献を抽出した。検索式は、「("国または地域名"[MeSH Terms] OR "国または地域名"[All Fields]) AND ("Artificial Limbs"[Mesh] AND ("1984/01/01"[PDAT] : "2013/12/31"[PDAT])) AND ("1984/01/01"[PDAT] : "2013/12/31"[PDAT])」であった。2 つ以上の国または地域に該当する文献については、重複を避けることとし、主著者の所属機関の所在地を優先して国または地域を分類した。抽出された文献を国または地域別にエクセルの各ワークシートにまとめ、タイトル、抄録の内容から、「目的」、「研究手法」、「内容（義肢/ユーザー/サービス・制度等その他）」の分析を行った。

【結果】上述の期間で artificial limbs を含む文献として、2971 件の文献が抽出された。このうち、西太平洋地域の国または地域名が含まれる文献は、13 か国・地域、285 件であった。重複文献 4 件を除外した計 281 件の内訳は、オーストラリア 63 件、日本 60 件、中国 53 件、香港 27 件、マレーシア 18 件、シンガポール 17 件、韓国 12 件、ベトナム 11 件、カンボジア 9 件、ニュージーランド 8 件、ラオス 1 件、フィリピン 1 件、パプア・ニューギニア 1 件であった。オーストラリア、日本、中国が義肢に関する論文を多く発表しているトップ 3 であり、この 3 か国で全体の 63% を占めた。

オーストラリアや日本では、社会復帰や高齢者の歩行支援、多機能義足など、より高いレベルの QOL を追及する研究が行われていた。一方、カンボジアやベトナムでは、戦争や低コスト義肢の品質等に関する研究が行われていた。また、パプア・ニューギニアでは、WHO が推進する CBR の有用性に関する研究が行われていた。

【考察】

西太平洋地域には、社会的/経済的背景が大きく異なる先進国、発展途上国が多様に含まれており、共通課題となる研究が行われている一方で、国または地域の背景を反映した研究が行われている。なお、本研究では、西太平洋地域で行われている文献を、国または地域名が本文等に含まれていることを条件に検索しているが、すべての論文に研究が実施された国・地域名が記載されているわけではない。このため、本研究で抽出された文献は、各国・地域で行われている研究の全数ではなく、サンプル的な位置づけに留まることに留意が必要である。